

外部評価委員会・事務局まとめ

2回の外部評価委員会における委員の意見、及びそれに対する事務局(経済学部)のコメントを項目別にまとめると以下のとおりになる。

1. プログラム

(1) アドバンスト・プログラム

【委員の意見】

- ・アドバンスト・プログラムについては面白いが、内容面でまだ詰まっていない面もあるので、実のあるものにしてほしい。
- ・アドバンスト・プログラムはただ鍛えるだけでは希望者が集まらない恐れがあるので、形に見える効果を伴うものにした方がよい。国際コースなら必ず留学させる。公務員・銀行コースについては、インターンシップを受けさせることが考えられる。
- ・海外留学に対する助成として越嶺会からの寄付金を有効に活用してほしい。

【事務局コメント】

アドバンスト・プログラムの考え方自体に賛同していただいたのはありがたい。具体的な施策を固め、しっかりと制度を肉付けしたい。留学費用の大学からの支援、優先的にインターンシップを受ける制度、地域の課題を考える講義等、具体的な検討をしたい。

(2) 英語による教育

【委員の意見】

- ・神戸大学では専門科目を英語で学べるコースがあるが、こうした授業を増やすことによって、国際的な視点で考えるようにすることができる。

【事務局コメント】

卒業時アンケートでも国際的な視点で考える能力は自己評価が低い。専門科目を英語で教える方策、外国書購読や語学の授業自体を増やす方策等が考えられるが、効率性、コストの観点も含めて検討したい。

2. 講義

(1) 全般

【委員の意見】

- ・授業視察の印象として、私語はなく、まじめに聞いているが、質問が少なく全体的に積極性に欠ける感じがする。学生のやる気を引き出す工夫が必要である。
- ・これに対する方策は、第一に講義の内容、第二にFD、第三に支援という3つの面から考えられる。

【事務局コメント】

北陸地域の学生の特色でもあるが、学生の積極性、やる気を引き出すことは、教育における最重要課題と考えている。以下のFD、支援面も含め、多角的な観点から具体策を検討したい。

(2) FD

【委員の意見】

- ・レジュメを事前にアップロードしておけば、事前に学生が読んでおくことができる。そうしたシステムがあるなら、各教員がもっと積極的に使うように仕向けるべきである。
- ・授業評価の高い教員については、ベスト・ティーチャー賞等として、表彰したらよい。また、そうした教員の授業については授業見学の機会を設ける等して、ノウハウの共有化を図るのがよい。
- ・かつて実施していたが形骸化したため止めたということかもしれないが、現在のFDでは足りておらず、復活したらよい。

【事務局コメント】

教材登録や学生への情報伝達のシステムはあるが、必ずしも普及していない。まず、教員に対してシステムの存在や使い方を知らしめ、普及させることとしたい。授業評価については表彰制度や授業評価の良い教員の授業を見学する機会を設ける等によりノウハウの共有化を行い、授業評価の結果をより活用することとしたい。

(3) 支援

【委員の意見】

- ・グローバル人材の育成というのなら、留学費用については大学側で負担する制度を検討すべきである。
- ・留学に対する助成として、越嶺会から寄付したのものもあり、そうした寄付金についても運用の仕方をもっと検討してもらいたいし、寄付金のPRもしてもらいたい。
- ・成績優秀者に対する表彰については、金銭的なメリットを与えるものも含めて、拡充を検討したらどうか。

【事務局コメント】

留学費用に関しては、越嶺会からの寄付金を活用し、さらに手厚く助成する仕組みを検討したい。成績優秀者表彰については、金銭的メリットを与える方策も含め拡充策を検討したい。

3. ゼミ

【委員の意見】

- ・1年生から4年まで切れ目ないゼミを開講しているが、この点はよい点である。
- ・ゼミはそれぞれ特徴があってよく、基準は少ない方がよい。学力を伸ばすゼミや、討論力を鍛えるゼミがあってよい。
- ・それぞれに対して大学側からサポートすることが大事である。前者であれば検定試験合格者に助成を与えたりとか、後者であれば他大学への交通費を助成するとかが考えられる。

【事務局コメント】

ゼミについては、個々の特徴を尊重し、さらに伸ばす方針とし、多角的な支援策を検討、実施したい。

4. 卒業後に求められているもの

【委員の意見】

- ・企業が求める人材としては、責任感、コミュニケーション能力、表現力が重要だと考えている。そうした点を高める講義・ゼミをお願いしたい。
- ・富山大学が地方国立大学として、地域への貢献を第一に考えるなら、地元とのプラットフォーム作りにも貢献できる人材の育成に寄与する教育体制の構築を考えてほしい。
- ・例えば新潟大学で「日本酒学」の講座が創設されたとのことだが、そうした新しいタイプの講義の新設を、寄付講座の活用も含めて、検討してほしい。
- ・企業ではSDGs(持続可能な開発目標)はキーワードになっているので、それに寄与するプログラムを整備するのも必要。

【事務局コメント】

地域貢献への取り組みは最重要課題ととらえている。地元とのプラットフォーム作りにも貢献できる人材の育成のためにはどのような授業科目が有効か、寄付講座の活用も含めて、具体的な施策を検討したい。責任感、コミュニケーション能力、表現力、さらにはSDGs(持続可能な開発目標)という観点からも教育内容を再点検することとしたい。

以上、上記の委員の意見には方向性を示されたものから、具体的に施策を示されたものがある。方向性を示されたものについては、事務局において今後さらに肉付けし、具体的な施策を検討することとしたい。具体的な施策まで示されたものについては、次年度に実施するべく、詳細検討を行うこととしたい。

以上